ヴィエトナム

# チョーライ病院プロジェクト

**実施地域**

**ホーチミン**

## 1．プロジェクト要請の背景

ヴィエトナムの保健衛生環境は、医療サービスが量的(薬品、医療器材)、質的(熟練した医師・看護婦)に満足な状態になかった。

このような背景のもと、ヴィエトナム政府は、同国南部地域の中核病院であり、我が国が1966年から10年間にわたって脳外科技術の向上に関する技術協力を実施したチョーライ病院に対し、同国南部地域の基幹病院としての機能強化を図るため、我が国にプロジェクト方式技術協力を要請した。

## 2．プロジェクトの概要

**(1) 協力期間**

1995年4月1日～1998年3月31日

1998年4月1日～1999年3月31日(延長)

**(2) 援助形態**

プロジェクト方式技術協力

**(3) 相手側実施機関**

チョーライ病院

**(4) 協力の内容**

**1) 上位目標**

ホーチミン市及びヴィエトナム南部地域の保健医療サービスが向上する。

**2) プロジェクト目標**

ヴィエトナム南部の中核病院として、チョーライ病院の機能が強化される。

**3) 成果**

a) 病院の基本的な組織や管理体制が向上する。

b) 病院情報管理システムが向上する。

c) 看護サービス及び看護管理が向上する。

d) 診療技術(脳外科、消化器、腎疾患、ICU)が向上する。

**4) 投入**

日本側

長期専門家　3名

短期専門家　17名

研修員受入　6名

機材供与　0.03億円

ローカルコスト　0.05億円

ヴィエトナム側

カウンターパート　11名

施設(病院、事務所、実験室)

ローカルコスト(病院運営費)

## 3．調査団構成

団長・総括：小堀　鴎一郎　国立国際医療センター副院長

協力計画：松永　龍児　JICA医療協力部医療協力第一課課長代理

プロジェクト評価：中村　千亜紀　グローバルリンクマネージメント(株)プロジェクトマネージャー

## 4．調査団派遣期間(調査実施時期)

1998年12月20日～1998年12月25日

1999年1月20日～1999年1月25日(中村団員のみ)

## 5．評価結果

**(1) 効率性**

長期専門家は、ほぼ計画どおり派遣された。短期専門家については、派遣前に関連分野の長期専門家とカウンターパートとの間で詳細な技術移転計画を策定したことにより、技術移転の効率的な実施が図られた。

供与機材は量、時期とも適切であり、利用状況も十分であった。

毎週１回、専門家とカウンターパートとの定期会議が開催され、双方の意思疎通が緊密に行われたことも、本プロジェクトの効率的な実施に貢献した。

**(2) 目標達成度**

本プロジェクトによって、チョーライ病院の組織・管理体制の向上、患者管理と病歴管理の改善、診療技術の向上などを通じて、病院での医療サービスの向上が図られた。南部ヴィエトナム地域から同病院への紹介件数は、1994年度の7,155人から1998年度には9,482人に（1997年度は14,445人）、一方同病院から南部地域専門医への紹介件数は、1994年度の１件から1998年度には436件に増えている。また、南部地域から同病院に入院した患者数は、1998年度には28,154人に達した。

同病院では南部地域から1994年度～1997年度に年々150～170人の医療従事者を研修に受け入れたが、1998年度の研修受講実績は333人となった。このように、同病院は南部地域における医療教育の中核として重要な役割を果たしており、本プロジェクトの目標は達成されたと考えられる。

**(3) 効果**

チョーライ病院は、ホーチミン市を中心とするヴィエトナム南部地域の最上位の医療機関として機能している。同病院で研修を受けた医療従事者は、研修で習得した知識と技術を他の病院で活用しており、同地域の保健医療サービスの向上に寄与している。

**(4) 計画の妥当性**

ヴィエトナム政府が策定した「2000年までの社会・経済の安定化・開発戦略」では、保健サービスの質的向上を保健分野の上位目標の１つに掲げている。本プロジェクトの目標はこの国家政策と合致するものであり、本プロジェクトの妥当性は高い。

**(5) 自立発展性**

本プロジェクトは、政府の政策とも合致しており、引き続き政府からの支援は得られる見込みである。また、診療技術や各種管理技術もカウンターパートに十分に移転され、医療機材の維持管理も適切に行われている。このように、制度的、組織的、技術的側面から本プロジェクトの自立発展性は高いと思われるが、財政的には、治療費を支払えない患者の問題、政府の保険支出の伸び悩みなどの課題もある。

## 6．教訓・提言

**(1) 教訓**

派遣期間が短い短期専門家の役割を明確にし、効率的な技術移転を実現するために、派遣前に技術移転の詳細な計画を策定することが重要である。

**(2) 提言**

プロジェクト目標はほぼ達成されており、協力を終了することが適当である。ただし、ヴィエトナム南部地域の中核病院としてチョーライ病院の活動をさらに活発化させていくためには、同病院の教育研究機能の強化、病院情報システム発展などについて、ヴィエトナム側の自助努力が期待される。

## 7．フォローアップ状況

チョーライ病院の教育研修機能を支援し、さらに本プロジェクトの成果をヴィエトナム南部地域の病院の機能強化に活かすため、1999年度から５年間の計画で、チョーライ病院における現地国内研修を開始した。